

## 自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730286

研究課題名(和文) グローバル・ブランドの管理における親会社と地域統括本社との意思決定調整

研究課題名(英文) Decision Adjustment between Headquarter and Regional Headquarter in Global Brand Management

研究代表者

井上 真里 (INOUE MASATO)

日本大学・商学部・講師

研究者番号：60409480

研究分野：経営学・商学

科研費の分科・細目：経営学、商学

キーワード：グローバル・ブランド、ブランド管理組織、多国籍企業

## 1. 研究計画の概要

(1) 本研究の目的は、多国籍企業の中でも日本の耐久消費財企業（とくに輸送機械と電気機械）におけるグローバル・ブランドの管理について、親会社のブランド管理組織と地域統括本社との間における意思決定調整の実態を明らかにすることである。

(2) 当該企業の親会社と欧州地域統括本社を主なフィールドワーク対象としているが、その前段階として日米欧韓の多国籍企業に対する定量調査を現在実施している。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 平成20-21年度においては、多国籍企業におけるグローバル・ブランドとその管理組織の現状について改めて整理した。また、これまでの研究蓄積に基づいている分析枠組みや仮説についてもブラッシュアップすることができた。さらに、日本多国籍企業の親会社4社（守秘義務があるため社名は伏せる）へインタビュー調査を行い、分析枠組みおよび仮説を定量調査に落とし込むための準備を行った。

(2) 上記に基づき、平成22年度は定量調査を設計・実施した。調査の方向性としては2つあり、1つはブランド管理組織内における職能の多様性やマネジャーの多寡、本来所属している職能部門との時間配分が当該組織のプロセス（コミュニケーション、調整、協力）にいかなる影響を与えているかを明らかにすることである。もう1つは、トップ・マネジメントから委譲された意思決定権限に基づき、ブランド管理組織が自社内の職能諸

部門へいかに関与しているかを明らかにすることである。

(3) Fortune誌で毎年発表される「Global 500」の最新版に基づき、日欧米韓の主要多国籍企業（産業財企業や流通企業は除く）へ質問票を発送している。1社ごとに代表的なグローバル・ブランドを3つ選定し、それぞれの担当者へ発送しているため、企業数としては199社であるが発送数は597通である。

(4) しかしながら、定量調査を実施する段階で東日本大震災が起り、現在もその2次被害が続いているため、状況が改善するまでリマインドや回収などの進行を遅らせている。

## 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

(理由)

上記の理由で定量調査が完了しておらず、フィールドワークに必要なデータが十分に揃っていないとはいえないためである。

## 4. 今後の研究の推進方策

日本でのフィールドワークはしばらく難航することが予想されるため、定量データが十分でないとしても、これまでの研究蓄積に基づき欧州でのフィールドワークを行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

井上真里「なぜ多国籍企業にとってグローバル・ブランドは重要か」『商学集志』第79巻第1号、23-37頁、2009年、査読有。

〔学会発表〕(計2件)

- ① 井上真里「グローバル・ブランド管理研究を阻害する諸要因」日本商業学会第59回全国大会ワークショップ(関西大学)、2009年5月29日。
- ② 井上真里「組織面からみたグローバル・ブランド管理の現状と課題」日本流通学会第23回全国大会(名桜大学)、2009年11月1日。